

## 薬師如来像

薬師寺の本尊は薬師如来像です。阿弥陀如来が西方浄土（あの世）に住む如来であるのに対して、薬師如来は東方浄土に住んでこの世の苦しみを取り除く如来。もとは金色に輝いていましたが数度にわたる火災と風化で現在ののような漆黒に光る像になりました。1300年の年月を経てなお、人の心を捉えて離さず、はじめからこの漆黒色でつくられたかのようです。その姿は威厳と、高い精神性と品位を保っています。日光菩薩像・月光菩薩像とあわせて薬師三尊像と呼び、国宝です。薬師寺の建築時につくられたものだと言われますが中国や朝鮮半島にもない日本独特の様式だそうです。仏教伝来以後、何年もたつてないのに日本の独自技術になっているといい、そのことにも驚きます。古代から外来の技術を消化して取り込んでしまうのは日本人の国民性なのかもしれません。

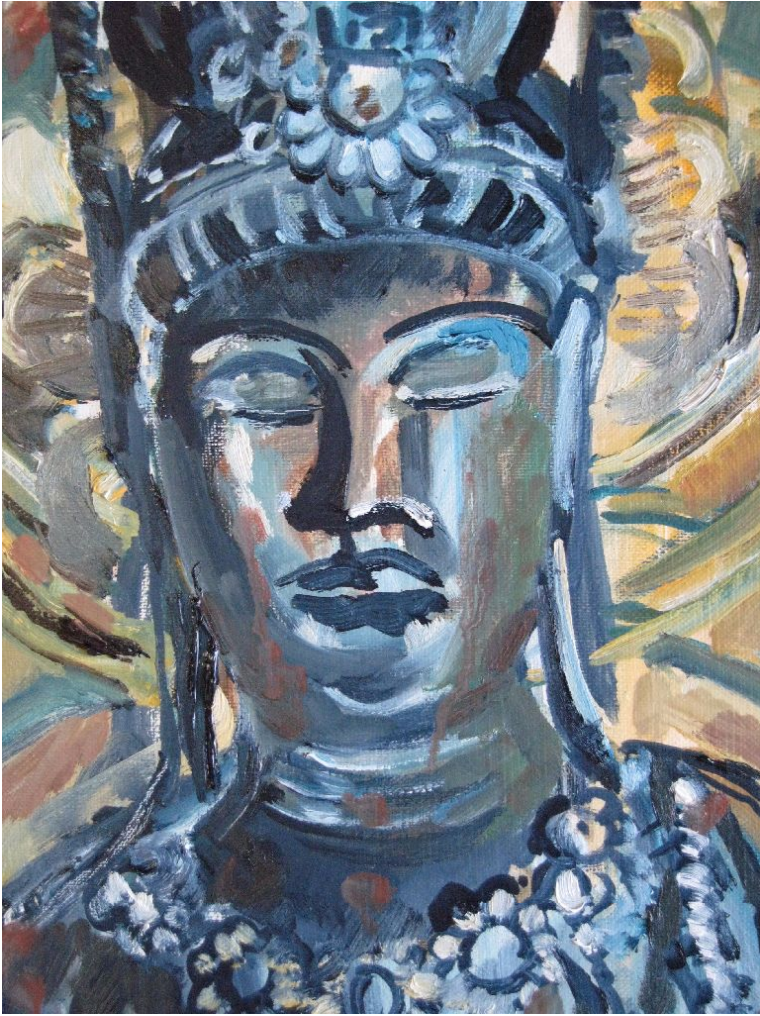


薬師寺本尊の薬師如来像

## 薬師寺の月光菩薩像

薬師寺では坊さんが法話をしてくださいます。時々大学生の若い僧侶が話してくれませんが若いのに話がめっぽうおもしろく、どこかで聞いたようなギャグやお年寄りの喜びそうな話を連発。「薬師三尊像のうち、中心に座っていらっしやるお薬師様は心や体の病気を治すお医者さんです。両側の日光菩薩は昼勤の看護士さん、月光菩薩様は夜勤の看護士でお二人あわせて一日中働いておられます。」などと行って人を笑わせていました。なるほどおもしろい説明です。

この薬師三尊像が今から一三〇〇年前に藤原京から遷都とともに平城京に運ばれたものか、それとも新地で铸造されたものかどうかについては意見が分かれ、いまだに決着がついていないそうです。



薬師寺の月光菩薩像



## 薬師寺の西塔

薬師寺の東塔は古いのですが、西塔は昭和五十六年（一九八一年）に復興されましたので非常にきらびやかです。一三〇〇年前の創建時の東塔はきつと、今の西塔のように絢爛豪華だったことでしょう。西塔も、一三〇〇年後には東塔のような渋い色になるのかもしれませんが。薬師寺は六八〇年、天武天皇が持統天皇の病氣平癒を願って創建しましたが、未完成のうちにくなくなり、続いて即位した皇后の持統天皇によって本尊開眼、文武天皇の御代に至り十八年もかかって七堂伽藍の大寺院になりました。



薬師寺の西塔

## 薬師寺遠望



住所 奈良市西ノ京町457  
電話 0742 33 6001  
花どき 紅葉(十一月末〜十二月初旬)

薬師寺はユネスコ世界遺産に登録されています。文武天皇の時代、藤原京(飛鳥)に完成した元薬師寺が、平城京への遷都に伴って現在地に移転されたものです。創建当時の薬師寺は今よりもずいぶんとけんらん豪華できらびやか。「龍宮造り」とも呼ばれ、息を呑むような情景だったといえます。東塔(三重塔)が完成したのもその年のことで、現在もこの東塔が残っています。現存する東塔に、よそから解体移築した痕跡がどこにも見られないことから飛鳥から移築されたのではなく平城京での新築とするのが、ほぼ通説になっています。平城京への移転後も、飛鳥の藤原京にあった本薬師寺はしばらく存続していましたが、後に廃寺となりました。現在飛鳥の本薬師寺跡には礎石のみが残っています。



## 唐招提寺の蓮池

招提寺を中心に日本の仏教振興に力を注いだ鑑真和尚が十二年もの歳月をかけて五回もの渡航に失敗し、やっと日本へ到着したのが六十七歳の暮れだったそうですが、六十七歳といえば人生も終焉です。鑑真和尚の像はともにおだやかな表情をなさっていますが、その中に秘められた強い意志が窺われます。日本では僧に戒律をさずけましたが、戒律とは「殺さない、盗まない、淫らな事をしない、嘘をつかない、酒を飲まない」等です。

日本に到着した頃には和尚の目は殆ど見えませんでした。鑑真は七十五歳でなくなり戒律を受けました。蓮は汚泥不染の花と言われ、泥水の中にあってもその泥に染まらず美しい清楚な花を咲かせます。



唐招提寺の蓮池

## 唐招提寺の宝蔵



住所 奈良市五条町13の46  
電話 0742 33 7900  
花どき 蓮(8月)

唐招提寺は天平時代に我が国ただひとつの戒律道場として鑑真和上によって創建されました。度重なる被災も免れて古く、当初の姿がよく残っています。一〇年くらいかかった本堂の修復が平成二十一年に完成し、再び公開されるようになりました。礼堂の東に校倉つくりの倉が二つ並んで建っています。北側の建物が宝蔵、南側の建物が経蔵です。

経蔵は唐招提寺創建以前の新田部親王の倉を転用したもので宝蔵よりもひとまわり小さく宝蔵は鑑真が請来した仏舎利を納めたとも伝えられます。絵にするには思いの外、難しい寺院ですが境内の建物や仏像は人をひきつけます。

毎年6月始めに鑑真和上像や和上が航海した海を表す東山魁夷作のふすま絵が公開されます。



## さざんかの咲く平城宮跡



平城宮跡はものすごく  
広大な敷地です。敷地の中  
では再建された朱雀門や  
大極殿が目立ちますがは  
るかにかすんで見えます。  
大極殿の西側には山茶花  
(さざんか)の花がたくさ  
ん咲きます。年末から寒さ  
に負けず、ひときわ明るく  
華やかに彩りを添えて咲  
きます。往時の平城京の華  
やかさは「あおによし な  
らのみやこは咲く花のに  
おうがごとくいまさかり  
なり」と万葉集に歌われて  
いますが、あお(みどり)  
と、に(あか)の荘厳な建  
物に飛鳥時代の人々は大  
きな誇りを感じたこと  
でしょう。平城宮跡は朱雀門  
や大極殿、他の建物が完成  
していつそう華やかにな  
りました。春の桜の季節も  
美しく特にライトアップ  
された夜景が素晴らしい。  
平城宮のさざんかの花時  
は十一月末から一月。桜は  
三月末から四月初旬。



## 朱雀門（平城宮跡）

平城宮から東大寺へ続く道を「佐保路」といいますがこの道路は奈良時代には平城京の主要道路のひとつでした。平城京は十六年しか続かなかつた藤原京から遷都されましたが、わずか一年半で工事をしたと言う。

非常な急ピッチで遷都を急いだ理由は平城遷都を決めた文武天皇の死後、母親である元明天皇の即位に対する疑問や不満が皇族、貴族の間に根強かつたため、遷都を主導した藤原不比等が急いだとされます。また、短期間で遷都できたのは藤原京から移築した建物が多かったからだとも言われています。



## 夜の平城宮朱雀門



夜の平城宮朱雀門は、特に桜の季節にはライトアップに花が映えてそれは美しい光景になります。

平城京は唐の都の長安をモデルとして造られました。都の大きさは、西の方へは、薬師寺や唐招提寺のあたりまで、東の方へは、東大寺や興福寺のあたりまで、東から西へ約四、三キロ、南北には、四、八キロに及ぶ大きな都でした。大路と小路が碁盤の目のようになつており生活排水を川へ流す工夫もなされていたといえます。大路の中は十M以上で小路は六、九M。朱雀門から出た朱雀大路はまっすぐに都の端の羅生門（らしょうもん）まで続き、両側は「左京」と「右京」に分かれています。東大寺辺りの東の高台は外京（げきょう）となっていました。